

今後の協働推進に向けた 市民自治推進課の事業の方向性 （案）

（１）「協働推進事業の特長（良かった点）」

- 1 相乗効果
- 2 共にまちの課題を考える
- 3 信頼関係（良い関係性）

（２）（市民自治推進課が行う）具体的な方向性

- ① 情報発信
- ② 交流の場づくり
- ③ コーディネート

（１）「協働推進事業の特長（良かった点）」

1 相乗効果

行政だけでは出来ない効果

- ・参加者との綿密な連絡調整
- ・体験談を踏まえて話せる説得力
- ・手法の広がり、新しい発想
- ・団体のネットワーク、マンパワー
- ・市民目線の意見（市のやり方だと堅くなってしまう）
- ・事業に関する専門性（知識や経験）
- ・費用対効果が高い

団体だけでは出来ない調整

- ・団体だけでは調整できない対象への事業（学校、美術館、幼稚園等の公共施設）
- ・市の信頼性（広報力）
- ・行政内の調整
- ・市の持っている最新の情報
- ・公共施設の利用

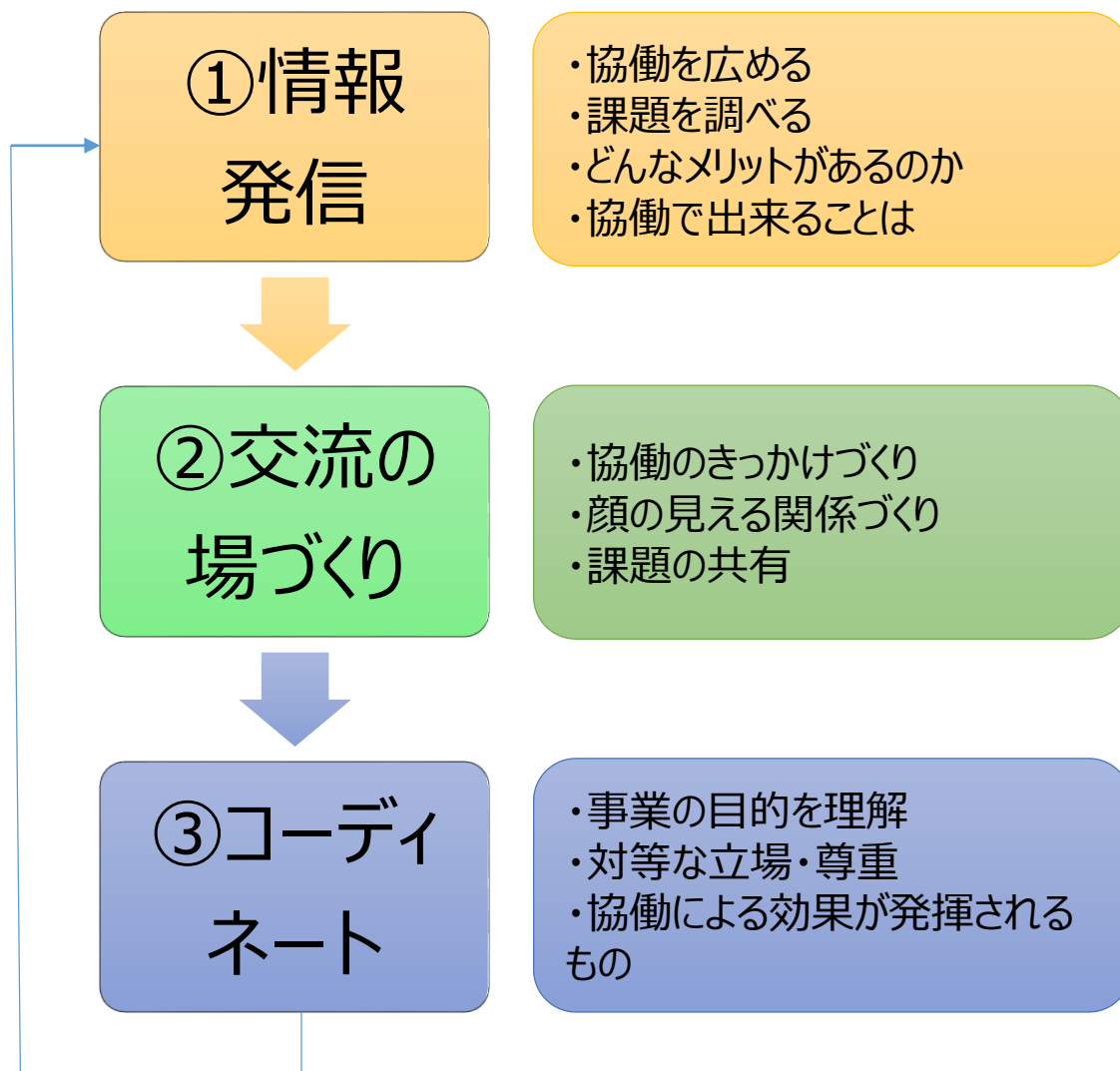
2 共にまちの課題を考える

- ・団体が育つことは公共の担い手が増える
- ・市民活動の活性化
- ・自分事として公共事業を行える
- ・市政に関心、理解を持ってもらえる
- ・仕様書にないことでも柔軟に相談し事業を行えた

3 信頼関係（良い関係性）

- ・本音を言える関係性により様々なアイデアが生まれた
- ・委託では出来ない対応力
- ・団体にとってもやりがいのある居場所となった
- ・お互いにできることを相談しあえる
- ・自発的な意思で取り組む姿勢を受け止めてもらった。やりたいことをやっているので不満はなかった。
- ・（協働から入れば）関係性が作りやすい

(2) (市民自治推進課が行う) 具体的な方向性



協働を身近に

・市民自治推進課が間に入り調整役となることで、協働のハードルを下げる。

【丁寧なマッチング】

お互いのことを知ってもらう

- ・どこの課に相談すればいいのか。
- ・どのような団体か、何を求めているのか、何を行っているのか

【相談】

- 何が出来て何が出来ないのか
- ・どうすれば出来るようになるのか相談する
- ・妥協点を調整する

1 相乗効果

対象

市（各担当課）

市民活動団体

アンケート
&
ヒアリング

- 1 （団体及び市）協働の制度や仕組みについて理解不足（委託との違い）。
- 2 すでにやっている様々な協働にも目を向けて欲しい。

良
か
つ
た
点
を
生
か
す

- 1 市は協働の姿勢が足りないのでは。
- 2 市と協働でどうことができるようになるのか知らない団体が多いと思う。

提案・
ねらい

- 1 協働を知ってもらう。
 - ・職員に協働の発想を持ってもらう。
 - ・協働の事例を紹介する。
 - ・協働のメリットを伝える。
（行政だけでは出来ない事業や成果）
- 2 協働と協働推進事業の違いを整理する。
- 3 多様な協働へと繋げる。
 - ・協働についてのハードルを下げる。

- 1 協働を知ってもらう。
 - ・何ができるのかを知ってもらう。
 - ・協働のメリットを伝える。
（市と協働により、出来ることが広がった。
団体だけでは実施出来なかった事業など）
- 2 多様な協働へと繋げる。
 - ・協働についてのハードルを下げる。

具体的な
方向性

① 情報発信

取組

- 1 職員研修（協働についての研修）。
- 2 庁内イントラネット・メール・庁内通知。
- 3 現在行っている協働を調べる。

- 1 説明会、意見交換会。
- 2 HP、広報紙。
- 3 サポートセンターと相談（ニュースレター）。

2 共にまちの課題を考える

対象

市（各担当課）

市民活動団体

アンケート
&
ヒアリング

- 1 協働は行政だけでは出来ない成果が期待できる。当事者としての意見を聞くことができる。
- 2 協働推進事業後の予算の課題が解消されれば協働したい。
- 3 前提として、市の意向（計画や考え方）と合致し、一緒にまちづくりができること。

良
か
っ
た
点
を
生
か
す

- 1 団体の力を発揮できる環境を求めている。
- 2 地域に根ざした市民活動団体であるから行政では気づきにくい地域の市民ニーズに気づける。
- 3 市担当課と顔の見える関係を築きたい。
- 4 地域課題について一緒に考えたい。

提案・
ねらい

- 1 市民活動団体のニーズや現場の困っていることを意見交換する
・市の考え方、現状、課題を伝える。
- 2 お互いに顔の見える関係を作る。
- 3 課題について一緒に考える。情報交換する。

- 1 他団体＆市に活動を知ってもらう。
・市民活動団体の活動内容の発表の場。
- 2 他団体＆市と顔の見える関係を作る。
- 3 課題について一緒に考える。情報交換する。

具体的な
方向性

② 交流の場づくり

取組

- 1 テーマ設定＋説明担当課募集。
- 2 ヒアリング。
- 3 分野別発表会＆交流会。

- 1 テーマ設定＋発表団体募集。
- 2 ヒアリング。
- 3 分野別発表会＆交流会。

3 信頼関係（良い関係性）

対象

市（各担当課）

市民活動団体

アンケート
&
ヒアリング

- 1 担当課がやりたいこと、求めていることに関する情報を市民活動団体は知らないと思う。（公益）
- 2 マッチングによって団体と市の課題をつなぐ。

- 1 団体としては、何が市に相談できるのか、どの場所が利用できるのか、できることをメニュー化して明らかにして欲しい。

提案・
ねらい

- 1 市民活動団体に市の課題を知ってもらう。
 - ・市の課題の中で市民活動団体と協働したい事業を周知する。
- 2 お互いに課題を共有する。
 - ・事業の目的を理解し、及び認識すること。
 - ・対等の立場に立ち、それぞれの特性と役割を理解し、及び尊重する。
- 3 マッチングにつなげる。
 - ・お互いのことを知る。市民活動団体と市の課題をつなぐ。

- 1 協働でできることを知ってもらう。
- 2 お互いに課題を共有する。
 - ・事業の目的を理解し、及び認識すること。
 - ・対等の立場に立ち、それぞれの特性と役割を理解し、及び尊重する。
- 3 マッチングにつなげる。
 - ・お互いのことを知る。市民活動団体と市の課題をつなぐ。

良
か
つ
た
点
を
生
か
す

具体的な
方向性

③ コーディネート

取組

- 1 市が希望している協働事業のヒアリング。
- 2 市（担当課）が求めていることを集約する。
- 3 市のニーズを市民活動団体に伝える。

- 1 協働でできることをメニュー化する。
- 2 市民活動団体の希望している協働事業をヒアリング。
- 3 市民活動団体のニーズを市に伝える。
 - ・地域の市民ニーズを市に伝える。